

ならしめますと共に 國民 生活の 安定

向上を 圖らねばならぬ 事は 復た 多言を

要せざる所でございます。

加藤

著者の實際速記筆蹟

新内閣成立以來財政行政の整理を高唱し加藤首相は

最近の定例閣議に於て大正十二年度豫算編成に對する

加藤

現時の 我歳計は 急激の

膨膨を來たし而して 經濟界は 今なほ

不安定の 狀況を 脱するに至りませぬ之れ御同様に

加藤

頗ぶる痛心に堪へざる所でありまして 一面 歳計を適當の

程度に緊縮致し 一面 經濟界の

安定を 恢復致し以て 財政の 基礎を 鞏固

加藤

加藤

加藤

加藤

行政整理に對する根本方針は 所謂天引主義を以てせず大体

Handwritten signature

前内閣の方針を踏襲し局課の廢合事務の統一によつて

Handwritten signature

經費の節減と能率の増進とを企圖せんとするものである。

Handwritten signature

著者より

本速記術の講述中途にして著者の一身上に揣らざる變動があつた爲諸多不備の點あるを深く遺憾とするものであるが自分は斯術の普及を以て其天職に奉せんとするものであるから若し質疑のある人士は返信料附にて著者宛照會して欲しい事情の許す限り回答する事を各まぬであらう終りに諸君の健康を祈る。

徹底的緊縮方針を要望し市來藏相亦歳入漸減の

Handwritten signature

實情より豫算緊縮の止む無き所以を繰述する所あつた事に就ては既報の通りであるが

Handwritten signature

一方行政整理に就ては前内閣の遺制たる準備調査委員會を

Handwritten signature

存續して着々調査の歩を進め成る可く大正十二年度

Handwritten signature

豫算に於てこれが實現を計るべき豫定であるが新内閣の

Handwritten signature

跋

我友櫻井郷三君一書を示して余に其跋を書けと云ふ君は公私共に多忙なるに拘らず何時の間に此大著を完成されたのか先づ度膽を抜かれたのである取つて之を覽るに其豊富なる蘊蓄と精密な調査とに依つて現在速記術の精を取り華を聚め之に十有餘年の久しきに亘る速記生活から體驗した獨創の見を加味して玉成せしめたもので高遠難解の理論に走らず平易簡明を旨とし説く所一々肯綮に中り論ずる所一として實際に行はれざるなく讀み終つて君が研究と考案の精緻微妙なるに感嘆したのである余も亦身速記に従ふものであるから斯術の普及發達の爲め自ら喜んで君の希望を容れ敢て一言せんとするものである。抑も君と余とは東西幾百哩を隔て、活働しつゝあつた關係上其名は久しい以前から知り合つて居たが初めて面會したのは極

最近の事である従つて膝を交へて懇談する機會は尠なかつたのであるが君の力量、手腕、蘊蓄には夙に敬服して居たのである今本書を手にし喜悅の念禁する能はず大方の精讀を推奨すると共に初學者諸君の参考に資するが爲に余の心理學の見地から斯術を解剖點檢して學習の便に供し此責を果したいと思ふ元來跋文は簡勁を以て貴しとするが名門は一派を開くと云ふから此變則的な跋も一概に排すべきでないと思ふ抑も速記術とは何であるか、言ふ迄もなく或特定の符號を用ゐて速かに書く技術である、即ち如何なる言論文章でも一言一句の脱漏誤謬なく記述する處の技術を云ふのである我國の文化は明治維新以來駁々として長足の進歩を爲し特に近年に於て異常な向上を見たのである、其因つて來る處は種々あるべしと雖新聞紙の寄與した功績は何人も之を否む譯には行かぬ、而して其背後に速記者ある事も亦牢記せねばならぬ、何となれば新聞紙の重要部分には皆是速記者の手を

經なければならぬからである、斯くの如く文化の向上と共に必然的に要求を繋るゝ速記術が今日迄遅々として頭角を現さず世人から殆ど其存在を忘れられて居つたのは何故であるか、指導者其當を得なかつたのも其一因であらうけれども學習者が速記なる文字に禍せられて單に速かに書くと云ふ事のみ没頭して肝心な翻譯を等閑に附した事も大なる原因ではなからうかと思ふ、元來速記術は其目的は翻譯にあるので速記は單に手段に過ぎない、手段の爲に目的を誤るは迂愚の譏を免れない如何に速記しても其翻譯が支離滅裂に終る様では何の役にも立たぬ、故に學習者は翻譯に重きを置いて技術の練磨を圖らなければならぬ、之と同時に言論文章に現はるゝ内容を理解するだけの勞力と腦力の養成を忘れてならぬと云ふ事を一言して本論に入る事とする、

偕て人間は習慣の束であると云ふ事があるが實際人間の日々反覆する事の

大半は習慣であると云つて宜い然らば習慣とは何であるか言ふ迄も無く一定の刺戟に對して一定の反應を行ふ様に神經原の接觸部に聯絡を作ると云ふ事である此意味より速記術も對者の讀むとか話すとか云ふ刺戟に對して書くと云ふ反應を行ふ事である而して習慣の形成及び破壊の難易は年齢に依つて大なる差違があるものである即ち年の若い程習慣は作り易く而して離れ易い夫れから之と反對に年の老いた程習慣を作る事が困難であるが之を破る事も亦難しい速記術習得者が年小時に於て有利であると云ふのは此謂である而して反覆すると云ふ事は其習慣を習熟せしむる上に於ての第一條件であらねばならぬ又習熟の効果如何は直接反覆の度数に比例するものであると云ふ事を忘れてはならぬ而して其反覆の回数は一時に多く行はず成るべく其回数を多くする方が効果がある例へば二十回の反覆をするにしても一時に二十回するよりも二日に五回宛四日間に反覆した方が効果があ

る、速記術に於ても此法則に遵ふを以て賢明の策とする之を反覆分配の法則と云つて學校に於ける授業が一週日中何日かに分けてあるのは此理に外ならぬ夫れから習慣習熟を材料から云ふと難解のものよりも平易なもの抽象的なものよりも具体的なもの、方が習熟し易いのは勿論である夫で習慣は運動を前提とする事を要する運動の習熟されたものを稱して習慣と云ふのであるが此運動を習得し習練して習慣を作る迄の過程如何と云ふ事は速記術學習の上に見通すべからざる重大な意義があると思ふ即ち習熟の道程には一種の進み方が儼然と定つて居る様である抑も運動の熟達即ち進歩は如何なる行程を辿るのであるか本人自身すら分らず唯何時も最善を盡して居るのであるが其間急に進歩の兆候が見える事があり又何等進歩の跡が見えない時がある即ち一進一退容易に進まない時期がある之は新しい習慣を作りつゝある時で例へば尺蠖の當に縮んだ時であるをとして新しい習慣が出

欠

大正十一年九月一日印刷
大正十一年八月四日發行



定價金貳圓參拾錢

著者

櫻井 三

發行者

仙臺市東四番丁七十三番地
山本 晃

印刷者

仙臺市教樂院丁六番地
早坂 亥 質

印刷所

仙臺市教樂院丁六番地
東北印刷株式會社
電話三八八〇七番

發行所
發賣所

速記術普及會
東北印刷株式會社出版部

終